

毎朝の学び

月刊朝礼

4

2026●No.505



CONTENTS

- 4 マイウエー & マイヒストリー 今、働く人たちへ
〈元豊岡市長・一般社団法人豊岡アートアクション理事長〉 中貝 宗治 ②
- 14 第59回 社会人のための なぜ?トレーニング
- 23 自分見直しチェックリスト
- 31 世界のことわざ vol.37
- 37 今月のマナー レッスン113 [社員旅行参加時のマナー]
- 41 歴史が教える人の生きざま 「豊臣兄弟」第4話 金ヶ崎の退き口

裏表紙 日本全国 祭りじまん 第1回 青柏祭の曳山行事 [石川県七尾市]



「月刊朝礼」はSDGsを支援しています。
www.un.org/sustainabledevelopment

日々の活気あふれる朝礼が、 企業の永続と発展の源です

たとえば、こんなふうに『朝礼』をされては、いかがでしょうか

- ① その日の朝礼当番が大きな声で元気良く「○月○日○曜日、朝礼を始めます。みなさん、おはようございます」と朝礼を始めます。
- ② ほかの人は、手を前で重ね、背筋を伸ばし、しっかりと立ち、大きな声で元気良く「おはようございます」と返します。
- ③ 朝礼当番が「今日も、ともに働く仲間に、感謝しましょう」と号令、参加者同士で握手をします。そのときお互いに「今日も1日よろしくお願ひします」と元気良く声をかけ合います。
- ④ 朝礼当番に続いて、以下の用語を全員で唱和します。

【ていねいなあいさつ用語】

おはようございます

お世話になります

失礼いたします

申し訳ございません

行ってまいります、ただ今帰りました

【接客5大用語】

ありがとうございます

お待ちいたしました

いらっしゃいました

かしこまりました

恐れ入ります

- ⑤ 簡潔に業務連絡、営業成績などを発表します。

- ⑥ 朝礼当番は「○月○日○曜日のページを開けてください」と言い、『月刊朝礼』を両手で胸の前で持って、その日のページを読み上げます。そのときほかの人も、『月刊朝礼』を両手で胸の前に持ち、静かに聞きます。
- ⑦ 『月刊朝礼』の感想を、それぞれが順番に発表します。感想は1分程度で簡潔にまとめます。(決められた時間内に人前で話すことを続けると「スピーチ力」が強化できます。) 1人が感想を言うごとに、全員で「ありがとうございます」と感謝します。

- ⑧ 社は、社訓、経営理念、営業目標、スローガンなどを唱和します。
- ⑨ 朝礼当番が1人を指名します。指名された人は、今日の自己啓発目標を、大きな声で元気良く発表します。それに対して全員で拍手、応援の声をかけます。
- ⑩ 朝礼当番が「それでは、今日も1日、よろしくお願ひします」とあいさつし、全員で大きな声で元気良く「お願ひします」と笑顔で答え、朝礼を終わります。

※朝礼のやり方は各社さまざまです。工夫次第で、やり方は無限大に広がっていきます。独自の朝礼を日々行って、朝から社内を活気づけましょう。

1	毎日がお正月 毎日を新しい心で始めましょう	6p	水 先負	17	0・1秒の勝負 清潔感と笑顔が信頼の土台になります	25p	金 先負 土用
2	人生の勝利者 挨拶は品性を養う第一歩	7p	木 仏滅	18	意見を言い合える職場 風通しの良い関係を築きましょう	26p	土 仏滅
3	希望膨らむ春 胸を張って堂々と歩こう	8p	金 大安	19	夢中になって楽しむ 楽しむことこそ上手の近道	27p	☹ 大安
4	天道虫 明るいほうに向かって行こう	9p	土 赤口	20	支えてくれる人たち 誰かの優しさに気づきましょう	28p	月 赤口 穀雨
5	お墓の前でピクニック 家族の絆を深めましょう	10p	☹ 先勝 清明	21	穏やかさは思いやり 自分の機嫌は自分で取りましょう	29p	火 先勝
6	スマイルブライスレス お客さまの自慢になる企業を目指そう	11p	月 友引	22	仲間の証し 厳しさは期待の裏返しです	30p	水 友引
7	小さな改善 自ら改善する意識を持ちましょう	12p	火 先負	23	その心は？ 心と言葉と行動を一致させましょう	32p	木 先負
8	心田 心を耕し成長しましょう	13p	水 仏滅	24	自分への投資 自腹を切るから本気になれる	33p	金 仏滅
9	いつでも聞いて 心理的安全性を高めましょう	16p	木 大安	25	行動した通り 志を持って行動しましょう	34p	土 大安
10	教えない指導 答えは自分でつかむもの	17p	金 赤口	26	愛され続ける理由 真摯な姿勢と情熱は後世に遺ります	35p	☹ 赤口
11	しっかりいい 朝食の習慣を付けましょう	18p	土 先勝	27	今すぐやろう 後回しにしない習慣を	36p	月 先勝
12	文明の始まり 思いやりの心が社会を発展させます	19p	☹ 友引	28	一本の藁 小さな力を育てましょう	38p	火 友引
13	タケノコの急成長 伸びる養分を蓄えましょう	20p	月 先負	29	子どもたちの太陽であれ 子孫の模範となる生き方をしましょう	39p	☹ 先負 昭和の日
14	相手の人生 相手の時間を大事にしましょう	21p	火 仏滅	30	リミッターの解除 昨日より一歩だけ頑張りましょう	40p	木 仏滅
15	中間報告のススメ 報告はまめに行いましょう	22p	水 大安	歴史が教える 人の生きざま 「豊臣兄弟」 第4話 金ヶ崎の退き口		41p	
16	人が集まる人 善い行いは、必ず誰かが見えています	24p	木 赤口	日本全国 祭りじまん 第1回 青柏祭の曳山行事			(裏表紙)

今月の表紙 4月「春の朝」

まだ少し肌寒い朝、やさしい春のはじまりを感じます。読者のみなさんが前向きな気持ちで最初の一步を踏み出せますように。

イラストレーター／tatama

幼少の頃から絵を描くことが大好き。大阪芸術大学卒業後、ファンシーグッズの会社で商品企画の仕事に携わる。現在は SNS を中心に創作活動を広げ、何気ない幸せな日常や心がほっとする瞬間を描き人気を集めている。X アカウント：@tatamaoekaki

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

「も」の発見

今、働く人たちへ
My Way & My History

コウノトリの絶滅と復活

コウノトリは、両翼2メートルもある大型の鳥で、かつては日本の各地で見られる鳥でした。しかし、環境破壊によって数を減らし、1971年、日本の野

外で絶滅しました。とどめを刺したのは、農薬。絶滅前の1965年、豊岡で人工飼育が始まりました。最初のヒナが誕生したのは、1989年のことでした。以来順調に数が増え、2005年、ついに自然界に放たれました。今、

500羽を超えるコウノトリが、再び自由に空を飛び回っています。この壮大な取り組みを率いたのは、「も」でした。

野生復帰の目標は何か

1991年10月、36歳だった私は、県議会初質問で、「鳥かごの中で増えつつあるコウノトリの将来をどうすべきなのか、専門家を交えて検討する必要がある」と促しました。教育長の答弁は「野生化も含めて、調査研究する」というものでした。

翌年度、調査が開始され、野生復帰を目指すという方向性が確認され、それを受けて県と市は野生復帰に向けて動き出します。

この事業の方向性を決定づけたのは、野生復帰の目標は何か、ということでした。最初の議会質問で私は、コウノトリの保護を前面に打ち出していました。しかし、環境破壊でコウノトリが

絶滅したのだとすると、環境の再生は不可欠です。それは人間にとつてどういう意味を持つのか、私は次第に、環境に目を向けていきます。

ロシアの湿地帯で考えた

1994年6月、私は、野生のコウノトリを見たい一心で、シベリアに出かけました。地平線まで続く湿地帯を、腰までの長靴を履き、巢のある電柱に



市内三江小学校の校庭。後ろの人工巢塔の上でコウノトリがヒナを育てています。(写真右奥のポール)

近づいてきました。そのとき、案内役の現地の研究者が、「コウノトリばかり写真に撮るな。ビオトープを撮れ!」と叫びました。コウノトリを支える生息環境に目を向ける、という意味でした。環境という観念が、コウノトリが暮らす現場で、すんと心の中に落ちてきました。

「も」の発見

以後、私は、野生復帰最大の狙いは「コウノトリも住める豊かな環境の創造」だと訴え始めます。コウノトリも住めるような環境は、人間にとつても素晴らしい環境に違いない。そこで、野生復帰をバネにして豊かな環境を再生する。

「も」の発見と私は呼んでいます。その中には、人間も入っています。この「も」の持つ簡潔な普遍性によつて、コウノトリ野生復帰は人々の支持を受け、

夢として共有されてきました。県と市だけでなく、中央省庁、研究者、J・A、農家、学校、子どもたち、企業など、さまざまな人々が「も」の下に集まり、それぞれの役目を果たしていきました。戦略目的をどう設定するのか、その重要性を示す一例です。

豊かな環境を創るのは、そこに住む人々の責任です。私は、野生復帰の拠点、県立「コウノトリの郷公園」の完成を見届けて、次は市民の先頭に立つて「コウノトリも住める豊かな環境」を創ろうと、2001年、市長選挙に出馬し、当選し、今度は、市長として野生復帰を進めていくことになりました。

——次号に続く。

なかがいむねはる昭和29年生まれ。京大法学部を卒業後、兵庫県庁入庁。平成3年から兵庫県議会議員を3期、平成13年から豊岡市長を5期務める。台風23号災害対策、1市5町の合併、コウノトリ野生復帰、インバウンドの促進、演劇のまちづくりなどを進めた。

毎日がお正月

今日は、多くの企業で新しい期が始まる日です。新入社員にとっては、社会人としてスタートを切る特別な日でもあります。

パナソニックホールディングス株式会社の創業者、松下幸之助氏の言葉に次のようなものがあります。

「年があらたまれば心もあらたまる。心があらたまればおめでたい。正月だけがめでたいのではない。心があらたまったとき、それはいつでもおめでたい。(中略) 毎朝、心があらたまれば、毎日がお正月。あらたまった心には、すべてのものが新しく、すべてのものがおめでたい」

新しい年を迎えると気持ち引き締まるように、今日という日を、心をあらためる良い機会にしましょう。

新入社員はもちろん、長く働く人にとっても同じです。お正月のように晴れやかな心で、決意と覚悟を持って最初の一步を踏み出しましょう。

「初心忘るべからず」という言葉がありますが、誰しも経験を経験を積みにつれ、当初の謙虚さや素直さを失ってしまうものです。本日だけではなく、毎日を新しい気持ちで迎えることを大切にしたいものです。

今日の言葉

毎日を新しい心で始めましょう

今日の気づき

松下幸之助 明治 27 ～平成元年(1894～1989年) 和歌山県生まれ。日本を代表する電機メーカー、松下電器産業(現・パナソニック)を一代で築き上げた経営者。「経営の神様」とも呼ばれる。PHP 研究所を設立し、晩年は松下政経塾を立ち上げ、政治家の育成にも力を注いだ。

コメント

人生の勝利者

Aさんは毎朝、近所にある多目的公園へ散歩に行くのが日課です。

そこではよく、近くの高校の野球部員がトレーニングをしています。彼らはAさんの姿を見ると、向こうから「おはようございます！」と大きな声で挨拶をしてくれるのが常でした。そのおかげでAさんは、自分も元気になるような気がしています。

「部員の皆さんは、本当に気持ちのいい挨拶をしてくれますね」

ある日、監督にその声を掛けてみると、次のように答えてくれました。

「ありがとうございます。私の方針なんですけど、部員には試合の勝利者だけではなく、本当の意味で人生の勝利者になってほしいと考えているのです。だから、挨拶や礼儀、清掃など生活の指導を大切にしています」

Aさんは「本当の意味で人生の勝利者」という言葉を聞き、その意味を考えました。そして、それはきつと誠実さや優しさ、強さを持った、品性の高い人物のことを指すのだろうと想像したのです。

Aさんは、自分自身のことを振り返りました。そして、品性を養うために、まずは礼儀正しい挨拶から始めてみようと思ったのです。

今日の言葉

挨拶は品性を養う第一歩

今日の気づき

コメント

希望膨らむ春

「春」という言葉の語源には諸説があり、その一つが「張る」です。

張るとは、大きく広がることです。植物の芽が膨らみ、上に載った土をはねのけようとしている様子から来ているという説です。

また、英語で春は「Spring」といいますが、もともとは「跳ねる、湧き出る、芽吹く」を意味する言葉です。

どこの国でも、春を「生命が力強く動き出す季節」だと捉えていたのがわかります。

暖かい季節になると元気になるのは、人も同じではないでしょうか。縮こまっていた心と体が温まり、内側から力が満ちてくるものです。

新年度が始まるこの時期は、環境が変わる人も多く、不安や緊張を抱えることが多いかもしれません。それでも、土をはねのけて伸びる新芽のように、胸を張って前進していききたいものです。

胸を張ると自然と背筋が伸び、視線が高くなるため、前向きな気持ち湧いてくるはずです。

春の爽やかな空の下、新しいスタートを切りましょう。

今日の言葉

胸を張って堂々と歩こう

今日の気づき

コメント

天道虫

週末、Bさんは家族で川沿いの道へ散歩に出掛けました。

5歳の息子が突然立ち止まり、指をさして言いました。

「見て！ テントウムシ！」

葉っぱの上には、赤くて小さなテントウムシが一匹、止まっています。

息子は目を輝かせて、じっとその動きを追っています。Bさんも思わずしゃがみ込み、しばらく一緒に眺めました。何度も来たことのある場所でしたが、見つけたのは初めてです。

子どものころ、テントウムシは「天道虫」であり、太陽に向かって飛ぶ縁起の良い虫だと教えられたことを思い出しました。西洋では、幸せのシンボルだと聞いたことがあります。

Bさんは、自分が見つけれなかった小さな幸せを、息子が見つ付けてくれたような気がしました。最近では、自分より恵まれた人をうらやむことが多く、心が苦しくなっていたのです。子どものような素直な心で周りを見てみれば、もっとたくさん幸せが見つかるかもしれません。

葉っぱの上から、テントウムシが飛び立っていきました。

今日の言葉

明るいほうに向かって行こう

今日の気づき

コメント

お墓の前でピクニック

沖縄には、旧暦3月の「清明」の節気に、親族一同が先祖の墓前に集まる「清明祭」という伝統行事があります。

新暦では4月上旬から中旬にあたり、その期間には多くの家族たちが墓地に集まり、先祖を供養します。

お墓をきれいに掃除し、重箱に詰めた料理や果物、酒が供えられます。そして墓前に敷物を広げ、親族みんなで食事をするのです。その様子から、テレビなどでは「お墓の前でピクニック」と報じられることもあります。

清明祭の目的は、先祖供養、一族の絆の確認、健康や繁栄への感謝と祈願です。家族が仲良く集まる姿を見せることは、先祖に「私たちは今もつながっていますよ」と報告し、安心してもらうためでもあります。沖縄では、親族の親睦を深める大切な時間とされています。

いよいよ春本番となり、爽やかな季節を迎えます。

旅行や行楽に最適なこの時期、家族や親戚が集まって、お墓参りに行くのもいいのではないでしょうか。

みんなが仲良くしている姿を、きっと先祖も喜んでくれるはずです。

今日の言葉

家族の絆を深めましょう

今日の気づき

コメント

スマイルプライスレス

ケーキ店で働くIさんは、店長からいつも次のように言われています。

「お店に来たお客さまが、『こんな素晴らしい店で買い物をしたんだよ』と胸を張れるようなお店にしよう。それは商品の品質だけじゃなく、スタッフのサービスや人柄、お店の雰囲気、清潔さも全部含まれるんだ」
入社したばかりのころ、Iさんは「おいしいお菓子が買えたら、それで十分なのでは」と思っていました。

しかし働くうちに、そうではないことがわかってきたのです。

ある日、お客さまが言ってくださいました。

「このお店は接客が素晴らしくて仕事が丁寧だから、気持ちよく買い物ができるのよ。あなたたちの笑顔も商品の一つだわ」

Iさんは、お店の信頼をつくっているのが、商品だけではなく自分たちの振舞いそのものだと実感したのです。

そう思うと、店内の清掃や、電話の応対、身だしなみなど、さまざまなことに気を遣う必要があることがわかりました。

Iさんは、お客さまに自慢してもらえそうな店を今日も目指しています。

今日の言葉

お客さまの自慢になる企業を目指そう

今日の気づき

コメント

小さな改善かいぜん

4月になり、新しい目標を立てる人も多いことでしょう。

大きな目標も重要ですが、小さな目標を積み重ねることも大事です。

日々の目標として、「職場で小さな改善を一つ実行する」というのはいかかがでしょうか。

たとえば、次のようなことなら、できるのではないのでしょうか。

共用の棚たなを使いやすい配置にする。コピー用紙や備品びひんの在庫管理の見直しをする、トイレの照明やインテリアを変え、環境かんきょうを良くする。

こうした小さな改善は、仕事の質しつじょう向上につながります。

「こうすれば、もっと使いやすくなるのではないか」と思う改善は進んで実践じっせんしていきましよう。自分だけではできないことは、上司や先輩せんぱいに相談してみましよう。続けていくうちに、他の人が不便ふべんに思っていることや、解決かいけつが難しい問題点にも気づくようになるはずですよ。

誰だれかではなく自分が良くしていこうという意識いしきが大切です。

働きやすい環境かんきょうは、一人一人の意識によってつくられていきます。まずはあなたから、小さな一歩を踏み出してみましよう。

今日の言葉

自ら改善する意識を持ちましよう

今日の気づき

.....
.....

コメント

.....
.....

心田 しんでん

本日はお釈迦さまの誕生を祝う「花祭り」です。

この日に思い起こしたい教えの一つが、「心を耕す」という言葉です。

あるとき、お釈迦さまは田を耕していた村人に「あなたも自分で田を耕してはどうか」と言われました。お釈迦さまは静かにこう答えたのです。

「私もまた田を耕すものなり」

お釈迦さまが言う耕すとは、心の田を耕すという意味でした。信仰を種とし、修行に励み、心を鍛えることを言ったのです。

硬く冷たい土では農作物が育たないように、頑なな心には、何も芽生えませぬ。心を柔らかく耕してこそ、さまざまな学びや経験を吸収し、成長につなげることができません。

仏教に限らず、現代の私たちにも必要な教えだといえるでしょう。

それでは、心を耕すためにどのようなことが必要でしょうか。

たとえば、感謝をする、人の意見を素直に聴く、良い言葉や良い行いに触れる、自らの行いを振り返るなど、心を柔らかくする日々の小さな積み重ねが大事です。毎日の朝礼での学びもその一つだといえます。

今日の言葉

心を耕し成長しましょう

今日の気づき

コメント

職場のウェルビーイングを考える

社会人のための

なぜ? トレーニング



明るく元気に働くヒントになる「なぜトレ」シーズン6です!
今年度は文藝春秋から昨年発行された『昭和100年の100人』
という本から偉人を選び、家庭や働く現場で実現する方法論を探ります。

第59回

「反骨」を買った岡本太郎の ウェルビーイング

万博シンボルの違いに見る
アートの存在感

昨年の大阪・関西万博をめぐって「ミヤクミヤク」と半世紀前の「太陽の塔」との比較を、何度か耳にしました。いずれも最初は「気味が悪い」と評されましたが、ほどなく「ミヤクミヤク」は、親しまれる存在として人気を博します。対して万博の会期中は最後まで理解されなかった「太陽の塔」。未来への希望に満ちた場に、縄文時代の土器をモチーフにした奇抜なデザインが、受け入れられませんでした。私自身は中学生でしたが、実物の前に立ちたときに、突き放されたような、しかし強烈な印象に慄いた経験が蘇ります。

今号では「昭和100年の100人」(文藝春秋)から「太陽の塔」を制作した芸術家・岡本太郎を取り上げます。岡本は、世間の評価を全く意に介さず「歴史

を越えて残ればいいのだ」と言い放ち、その通りになりました。この両者の違いは、好みやデザイン論を超えた時代の空気、作家の生きざま、価値観の反映なのでしよう。岡本は見る者に對し、歩み寄り、寄り添う態度とは無縁でした。

逆境を引き受けて生きる
ウェルビーイング

彼の人生は、決して順風満帆ではなかったと言います。教師との対立で転校を重ねた小学校時代。その後、大学を中退してパリに渡るも、大きな壁にぶつかりました。彼の前衛芸術は、留学先でも帰国後も理解されず、批判や嘲笑を浴びる日々が続きます。やがて岡本は「対極主義」という概念を確立しました。端的には既存の常識の否定と調和という、相反するものを両方引き受ける態度でしょう。

「芸術は爆発だ！」とは岡本の有名な言葉ですが、評価や安定を求めず、自分の内側から湧き上がる衝動に真摯に向き合い、評価を確立しました。では「爆発」は優れた芸術家だけに許された、特権的な感情なのでしょうか？

否、岡本が遺した言葉によれば「自分は才能がないとか、学歴がないとか、ちっぽけな劣等感に縛られてはいけない。問われるべきは、自分の足で立ち、全身全霊で人生にぶつかっているか？」そんな燃えるような姿勢そのものだと思います。「太陽の塔」が放つ他者への拒絶感、岡本の生き方の象徴だったのかも知れません。

私たちは「ウエルビーイング」という言葉を使うとき、つい安心や安定を重視しがちです。あるいは最近では「スパイパ」という風潮も生まれました。一方で、対極にあった岡本太郎の生き方。危うさや孤独を求め、回り道を厭わず闘い続けること。それが彼にとつてのウエルビーイングだったのであり、私たちへの教訓を投げかけているのかも知れません。

岡本は、道を歩む過程で誰もが向き合

う「行き詰まり」に対して、次のように言います。「罵倒され、拒絶され、孤立する今こそ、創造の現場だ。行き詰まりとは終わりではない。古い自分が壊れ、新しい自分が芽を出す時だ」と。

現場の人も管理職も、合理的に結果を求めることが必要な場面も多いでしょう。しかし時には、違和感や挑戦を受け止める姿勢を示すこと。それが個人や組織全体の、新しいウエルビーイングの形を作り上げるのかもしれない。



作家・元中学高等学校長
水野次郎（みずのじろう）

幼児雑誌「こどもちゃれんじ」の初代編集長として「しまじろう」開発の中心メンバーとして携わった。2008年より学校教育現場へ転身。千葉県で民間人校長（中学・高校）の9年間を通して、キャリア教育に力を入れる。千葉県教育委員会を定年退職後はモラロジー道徳教育財団の特任教授（キャリアコンサルタント）として、高校生や大学生世代のキャリア支援にあたってきた。2021年4月より2023年3月まで島根・開皇中学校高等学校、東京・明星中学校高等学校長を歴任。

刺激が満載！ 岡本太郎が遺した言葉

私は川崎市にある岡本太郎美術館の近くに住んでいて、何度か足を運びました。また旅先で偶然、展覧会に出会ったこともあり、彼の作品には馴染みが深いのです。著書『自分の中に毒を持って』や『岡本太郎の眼』にも感銘を受け、学校勤務時代は生徒にも薦めていました。本原稿を書くにあたっては、著書を読み返すなど調べ物をする中で、改めて岡本の魅力に引き込まれたのです。とくに、その精神遍歴について「偉人カフェ」というYouTube動画でよく理解できました。フランスへの留学と、中国への戦争体験が、思想の深みを作り上げたこと。創作の壁に直面したときは、絵筆を置いてパリ大学で文化人類学を学びます。あるいは彼自身が「全く無駄な5年間だった」という戦争の体験では、逆に作品の表現につながった面もあるようです。復員後には戦災で作品をすべて焼失し、国内の画壇で強く批判されたことも、エネルギーへと転化されていきました。岡本を襲った出来事や、遺した言葉が数本の動画で紹介されているので、ぜひ覗いてみてください。岡本が幼少期から青年期、そして円熟期にかけての歴史が伝わってきます。そうし岡本のメッセージは、高市総理「挑戦しない国に未来はない」という言葉とも重なり、感性豊かな若い人には、ぜひとも触れてほしい強烈な生きざまです。

いつでも聞いて

新入社員のCさんは、慌^{あわ}てる^{かんたん}と簡単なことでも間違^{まちが}えたり迷^{まよ}ったりしてしまいます。先輩^{せんぱい}は「わからないことがある^あれば何でも聞いて」と言^いってくれますが、「そんなこともわからないの^の」と思^{おも}われそう^{しゅもん}で質問^{しつもん}をためらう^たこともありまし^た。悩^{なや}んでいたある日、別の先輩^{せんぱい}から声^{こゑ}を掛^かけられました。

「質問^{しつもん}するべきかどうか迷^{まよ}ったときは、質問^{しつもん}してもいいからね。迷^{まよ}っている間^{かん}に解決^{かいけつ}できるかもしれないから」

Cさんはホッとして、「ありがとうございます」と言^いったのです。

「いつでも聞いていい^い」と思うと不安^{あやわ}が和^{やわ}らぎ、以前^{いぜん}より冷静^{れいせい}に考えることができる^こようになります。すると自然^{しぜん}に、自ら^{みづか}判断^{はんだん}して動^{うご}けることも増^ふえていったのです。

慣^なれないうちは、一度^{いちど}聞^きいただけでは頭^{あたま}に入^いらない^こがあります。たとえ理解^{りかい}できたとしても、すぐ^{すぐ}に実行^{じっぎん}できない^こともあるでしょう。新入社員^{しんじゅしんぱん}が困^{こま}っていたら、その不安^{あやわ}を理解^{りかい}し寄^より添^そいた^いたい^ものです。

大事^{だいじ}なのは、安心^{あんしん}して仕事^{しごと}ができる^{じょうたい}状態^{じょうたい}にすることです。新入社員^{しんじゅしんぱん}に限^{かぎ}らず、みんなが心安^{あんあん}らげる^{かんきよう}環境^{かんきよう}をつく^つっていきま^いしょう。

今日の言葉

心理的^{あんぜんせい}安全性^{あんぜんせい}を高めま^しよう

今日の気づき

コメント

教えない指導しど

エディー・ジョーンズさんは、2012年から2015年まで、ラグビー日本代表のヘッドコーチを務めました。2024年、9年ぶりにヘッドコーチに再就任しています。

エディーさんは、選手に対して答えをすぐに教えない指導で知られています。たとえばミスが起きた場面では、「今、何が起きていたと思う?」「次はどうしたい?」と問い掛け、選手の考えを聞くようにしていたそうです。

問題点を自分で見つけて言葉にすることで、選手たちはゲーム中も主体的に考え、瞬時に行動できる力を養っていったのです。

これは、ラグビーに限らず、あらゆるチームにおいて大切なことでしょう。問題が起こったとき、どうすればいいかを教えてしまうのは簡単なことです。しかし、それでは受け身になり、自ら解決する力が身に付きません。

上司は部下に、「何が原因だったのか」「自分は何をすべきだろうか」と、自ら考えるように導くことが大切です。

一人一人が主体的になることで、より良い商品やサービスを作り出すことにつながりましょう。

今日の言葉 答えは自分でつかむもの

今日の気づき

コメント

しつかりいい

本日は「しつかりいい朝食の日」です。

グラノーラ「フルグラ」を展開するカルビー株式会社が制定しました。

同社によると、「新しい生活が始まる忙しい4月に、しつかりといい朝食を取ってもらうこと」を目的にした記念日だそうです。日付は「4-1」を「しつかりいい」と読ませる語呂合わせになっています。

朝食は1日のスタートを支える大切なエネルギー源です。炭水化物、たんぱく質、ビタミンなどバランスよく栄養を取りましょう。

また、朝にしつかり食べることには、「体温を上げて身体を目覚めさせる」「脳にエネルギーを送り、集中力を高める」「生活リズムを整え、心に余裕をつくる」など、たくさんメリットがあります。

そう思えば、朝食を取ることは、「良い1日を過ごすための投資」ともいえます。

忙しくて食事の時間がないという人は、朝の過ごし方を少し見直してみませんか。新しい環境で頑張る人ならなおさらのことです。

少しの早起きと手間で、毎日をもっと充実するはずですよ。

今日の言葉

朝食の習慣を付けましょう

今日の気づき

コメント

文明の始まり

アメリカの文化人類学者、マーガレット・ミードは、あるとき学生から次のような質問をされました。

「人類最初の文明を示す証拠は何だと思われますか？」

あなたはどのような答えを想像しますか。土器や釣り針などを思い浮かべる人もいるかもしれませんが。しかし、ミードの答えは意外なものでした。

「それは、骨折が治った跡がある、人間の大腿骨です」

なぜ、人間の治癒した大腿骨が文明の証拠なのでしょう。

たいていの野生動物は、足の骨が折れたら生き延びられません。走れなければ、狩りをするのも、敵から逃げて身を守ることもできないからです。

しかし発掘で発見された昔の人類の大腿骨には、骨折が治った跡があります。これは、けがが癒えるまで世話をした者がいたことを意味します。

ミードはこれを、「仲間を助ける人類が現れたことこそが文明の始まりであり、人類が人間となった証拠だ」と説いたのです。

助け合いは人間の大きな特徴の一つです。人を思いやる心があるからこそ、人類は生き延び、文明を発展させることができたのでしょう。

今日の言葉

思いやりの心が社会を発展させます

今日の気づき

マーガレット・ミード (1901～1978年) アメリカ・ペンシルベニア州生まれ。文化人類学者。数多くのフィールドワークをこなし、精力的に研究を行い、文化人類学の発展に貢献した。

コメント

タケノコの急成長

春になると、タケノコが土の中から顔を出します。

その成長スピードは驚くほど速く、ピーク時には1日に1メートル以上伸びた記録もあります。

タケノコがこれほど急成長するのは、1本の竹に約60個ある「節」が全て同時に伸びるからです。

また、地中でつながらる地下茎から養分をもらっているため、日当たりの悪いところに生えたタケノコも、一斉に育つことができます。

しかし、急成長するのは地表に現れてから1カ月ほどのごく短い間です。その間に養分をたっぷりと吸収し、立派な竹に育ちます。

タケノコが一気に伸びるように、人も伸びる時期があるものです。

人の成長の養分となるのは、日々の学びや経験です。成長のチャンス逃さないように、若い時期はたくさんの本を読んだり、新しい仕事に挑戦したりしたいものです。失敗も成功も、全てが成長の糧になります。

伸びる時期がまだ来ない人は、「今は養分を蓄える時期」だと捉えましょう。地道な努力を続けられれば、きっと大成する日が来ます。

今日の言葉 伸びる養分を蓄えましょう

今日の気づき

コメント

相手の人生

時間は誰にとっても平等かつ大切な資源です。

だからこそ、時間の扱い方には、その人の人柄が表れます。

相手の時間を奪ってしまわないためには、たとえば次のようなことを心掛けるといいでしょう。

1 約束の時間を守る。決められた時間に遅れると、その後の相手の予定が狂ってしまいます。会議や打ち合わせは、開始の時間だけではなく、終了の間も守りましょう。

2 効率よく伝える。相談したいことをメモにまとめておくなどすると、短時間で伝わります。また、仕事中に話し掛けるときは、「5分ほどお時間よろしいでしょうか」など先に確認をするようにしましょう。

3 返事をすぐに送る。会合の出欠確認などは、待つ人のことを考えて、できるだけすぐに送りましょう。

時間を尊重することは、相手の人生を尊重することでもあります。

「この人と仕事をするとう気持ちがいい」と思われるのは、日々の誠実さの積み重ねです。

今日の言葉

相手の時間を大事にしましょう

今日の気づき

コメント

中間報告のスヌメ

この春から社会人になったDさんは、張り切って仕事に取り組んでいます。しかし先日、思わぬ失敗をしてしまいました。先輩から受けた指示を勘違いしたまま資料の作成を進めてしまったのです。結局、提出時に指摘され、慌てて修正することになりました。

先輩からは次のようなアドバイスをもらいました。

「仕事は全部終わってから報告するんじゃないくて、途中で中間報告をするようにしてください。方向性を間違えていたら修正ができるし、わからないことを確認することもできるからね」

依頼された仕事を、完成するまで一人で抱え込む人は意外に多いものです。

「何度も相談するのは迷惑だろう」と遠慮してしまう人もいるかもしれません。しかし、依頼した側からすれば、途中経過を報告してくれると安心です。

新人は特に、緊張や不安が多く、思い込みで仕事を進めてしまうことがあります。指導する側も、定期的な声を掛け、正しく進められているか確認するようにしたいものです。中間報告をすることは、仕事の質を高めるとともに、上司と部下の信頼関係を深めることにもつながります。

今日の言葉 報告はまめに行いましょう

今日の気づき

コメント

『月刊朝礼』

4月の

自分見直しチェックリスト

「昨日の自分より、一步でも成長したい!」という思いを実現するためには、日々の反省がとても重要になります。そこで一度、自分自身を見直してみましょう。きっと今の自分をさらに成長させるための発見があるはずです。

下記チェックリストに○を付け、合計点数を計算しましょう。

※できている=5点 どちらかといえばできている=4点 どちらでもない=3点 どちらかといえばできていない=2点 できていない=1点

① 人生の目標を定め、達成するために日々努力している	5 4 3 2 1
② 「すみません」という反省の心で自らの非を認められる	5 4 3 2 1
③ 「私がします」という奉仕の心を実践している	5 4 3 2 1
④ 私利私欲を交えず、誠実な姿勢で人と接している	5 4 3 2 1
⑤ 「はい」という素直な心で返事をしている	5 4 3 2 1
⑥ 「ありがとう」と1日に10回以上感謝を伝えている	5 4 3 2 1
⑦ どんなものに対しても、謙虚に「学ぶ」気持ちを持っている	5 4 3 2 1
⑧ 毎日、明るく元気な挨拶をしている	5 4 3 2 1
⑨ 部下や先輩、子どもの「お手本」になる正直な行動をしている	5 4 3 2 1
⑩ 相手を理解しようと努力し、思いやる行動をしている	5 4 3 2 1

合計 点

50～40点 ★★★★★

「さすが!」の一言。あなたは『月刊朝礼』が目指す「誠実な人材」です。これからも人を思いやり、社会や他人のために尽くす心を忘れず、自らを高めていきましょう。あなたがみんなの「お手本」です!

39～30点 ★★★

まだまだあなたは成長できます。今の自分に足りないものは何かを再度確認し、自分の行動を見直してみましょう。そうすれば、あなたの毎日はもっと輝き、たくさんの人を笑顔にすることができます!

29～20点 ★★

これからが、あなたの勝負どころです。自らを高めるのに年齢制限はありません。誠実な人材として、自らの人生をよりよくするために、毎日の行動を意識しましょう。きっと見える景色が変わります!

19～10点 ★

まずはできることから始めましょう。明るく元気な挨拶や、1日10回の「ありがとう」は、今日から実践できます。日々の行動を少し変えれば、あなたの人生は変わります。誠実な人材を目指して一歩前進!

人が集まる人

中国の古典、『論語』の一節に「徳は孤ならず、必ず隣有り」という言葉があります。徳のある人は決して孤立することはなく、必ず理解者や仲間が現れるという意味です。

たとえば、職場環境を良くするための取り組みを思いついたものの、実行する勇気が出なかつたことはないでしょうか。

もしくは、地域の問題を解決したいけれど、「自分一人が頑張っても何も変わらない」と諦めたことはありませんか。

確かに、善い行いをして、すぐに評価されるとは限りません。

むしろ、報われないように感じることもあります。しかし、たとえ始めるときは一人であっても、誠実に行動し続ける人の周りには、自然と人が集まってくるものです。

一例を挙げれば、広島県の高校生が海岸のごみ拾いを一人で始めたところ、次々と協力する人が増えたという事例がニュースになったことがあります。

世の中のため、人のために実現したいことがあるなら、臆せず行動し、続けていくことが大切です。

今日の言葉 善い行いは、必ず誰かが見えています

今日の気づき

コメント

0・1秒の勝負

最近ではファッションも多様化し、ふくそう 服装や髪型が自由な職場が増えています。

「人は見掛けで判断するものではない」とはいうものの、テイビーオー TPOに応じた配りよ慮が必要です。

特に、初めて会う相手には、内面の良さはすぐには伝わりません。そのため、どうしても第一印象が重要になります。

プリンストン大学の研究によれば、人は他者に対して0・1秒という短い時間で第一印象を形成することがわかっています。

さらに、その印象は長期間にわたって持続します。最初の数秒で相手が抱いた印象が、その後のコミュニケーションに影響するのです。

多様性たようせいの豊かな現代げんだいにおいても、「清潔感せいけつかん」と「笑顔えがお」が大切なことは変わりません。人と会うときは、この二つを忘れないようにしたいものです。

出掛ける前に、服装や髪型が整っているか、靴くつが汚れていないか、表情ひょうじょうがこわばっていないかなどのチェックをしましょう。

その場まにふさわしい身だしなみは、自分をよく見せるためだけでなく、相手に不快感ふかいかんを与えず、安心してもらうための「思いやり」でもあります。

今日の言葉

清潔感と笑顔が信頼の土台になります

今日の気づき

コメント

意見を言い合える職場

レストランで働くEさんの経験談です。

予約のあった宴会の準備をしていたとき、アルバイトの大学生が店長にこう声を掛けました。

「この盛り付けは、いつもと違うけど、いいのですか？」

実はその盛り付けは、予約のお客さまから特別に頼まれたものでした。

Eさんは「これでいいのよ。あなたは心配しなくていいから」と、仕事を進めようとしてました。すると店長は、学生に向かってこう言ったのです。

「指摘してくれてありがとう。今回は問題ないけど、次も気づいたらぜひ言うて下さい」

後でEさんは店長から次のように言われました。

「指摘を否定してしまうと、『余計なことを言った』と思って、あの子は次から間違いに気づいても言わなくなるからね」

間違いを指摘しにくい職場では、ミスがそのまま見過ごされてしまうことがあります。反対に、安心して意見を言い合える職場では、ミスが早く見つかり、改善が進み、仕事の質が上がるでしょう。

今日の言葉

風通しの良い関係を築きましょう

今日の気づき

コメント

夢中になって楽しむ

60代のFさんは、最近フォークギターの練習を始めました。

学生時代に挑戦したことがあったのですが、上手に弾ける友人と自分を比べてやる気をなくし、挫折してしまったのです。

教室に通い、練習を続けるうちに、レッスンは楽しみになってきました。さまざまな人と一緒に練習することが最初は不安でしたが、打ち解けると世代の違いも気にならなくなっています。

Fさんは友人に語ります。

「年を取ることは悪いことばかりじゃないね。若いころの『かつこよく見せたい』という見栄やこだわりから解放され、自由になった気分だよ。とにかく夢中になって楽しむことを第一にしているから、うまくいかないことも面白いと思えるんだ。家族も演奏を聴いて喜んでくれているよ」

新しいことに挑戦するとき、「上手だと思われたい」「褒められたい」など、他人からの評価を気にしてしまうことがあります。しかし、何かを続けるとき、大事なのは「楽しむ」ことです。自分自身が楽しみ、没頭することで、どのようなことも上達するのではないのでしょうか。

今日の言葉

楽しむことこそ上手の近道

今日の気づき

コメント

支えてくれる人たち

Hさんは、最近ずっと「自分ばかりが頑張っている」と感じていました。

仕事の量も責任も増え、みんなが自分の苦勞をわかってきていないように思えたのです。

しかしある日のことです。外出していたHさんは、今日の会議室予約と、資料を用意する指示を後輩に出し忘れていたことに気づきました。戻ってからでは間に合わないかもしれません。慌てて会社に電話をすると、後輩は言いました。「お疲れさまです。会議室は予約していますよ。今日使う資料は、あらかじめ印刷しておきました。ほかにも役に立ちそうな情報を見つけたので用意しています。後で確認してください」

Hさんはそこで初めて、「自分だけが頑張っているのではなく、周りも自分に合わせて協力してくれていたのだ」と気づいたのです。

Hさんは自分の傲慢さを反省し、職場の仲間に感謝しました。

忙しいときや苦しいときは、誰かの優しさや配慮に気づけないことがあります。周囲を責める気持ちになったときこそ、支えてくれる人たちに目を向け、感謝したいものです。

今日の言葉

誰かの優しさに気づきましょ

今日の気づき

コメント

穏やかさは思いやり

仕事をしていると、思い通りにいかないことや、心が乱される場面に出合うことがあります。そのようなとき、つい感情を表に出してしまいがちです。

誰にでもあることですが、だからこそ「自分の機嫌は自分で取る」という姿勢を大切にしたいものです。

機嫌よくいることは、それだけで周囲への思いやりになります。

不機嫌さは表情や態度に表れ、相手に余計な緊張や不安を与えてしまいます。

す。反対に、穏やかな表情や落ち着いた雰囲気は、周りの人の心を和らげ、職場の空気を温かくしてくれます。

機嫌よくいることは自分のためであると同時に、周囲に良い影響を与える道徳的な行いでもあるのです。

心を穏やかに保つには、どのような工夫ができるでしょうか。

まず大事なのは、自分の心を客観的に見つめることです。「イライラしているな」「焦っているな」など、感情を自覚するだけでも冷静さを取り戻すきっかけになります。そのうえで、深呼吸をする、笑顔をつくってみる、軽く体を動かしてみるなど、自分なりの気分転換の方法を試してみましよう。

今日の言葉

自分の機嫌は自分で取りましよう

今日の気づき

コメント

仲間の証し

社会人2年目のKさんは、最近少し戸惑いを感じています。

入社したばかりのころは、先輩たちがとても優しく、いつも「大丈夫だよ」と励ましてくれました。ところが2年目に入ると、注意されることが増え、評価の基準も厳しくなったように感じたのです。

周囲が急に冷たくなったように思えたKさんは、「嫌われるようなことをしたのだろうか」と不安を抱えていました。

しかし、ある先輩の言葉がKさんの見方を変えました。

「Kさんはもう『仲間』だから、私たちと同じ目線で仕事を任せているんだよ。新人の扱いと、仲間の扱いは違うのが当然だと思う」

みんなの態度が変わったのは、実は「仲間として認められた証し」だったのです。厳しく指導されるのは、Kさんが成長し、チームの一員として期待されているからでした。

Kさんは、一人前として認められたことに気づき、うれしくなりました。同時に、自分が甘えていたことにも気づき、反省したのです。これからは戦力として責任と自覚を持って仕事をしたいと思っています。

今日の言葉

厳しさは期待の裏返しです

今日の気づき

コメント

先人たちの知恵と経験が凝縮された「ことわざ」。知っておくと、さまざまな場面で役立ちます。よく使うのは日本のことわざですが、世界にもたくさんあるのをご存じでしょうか？国が違えば、物の見え方も違ってきます。心を豊かにしてくれる世界のことわざを紹介します。



フランス

パンが必要な者はどんなことでも考え出す

「生きるために切実な状況では、どんな工夫や手段でも思いつく」という意味のフランスのことわざです。フランス人にとってパンは生活の糧の象徴です。困窮すると、普段は思いつかない方法を考え出すという人間の本质も表しています。

用
例

「彼は貧しい生活のなかで、多くの節約術を考えました。『パンが必要な者はどんなことでも考え出す』とは、まさにこの状況のことですね」



【日本の似たことわざ】^{きゅう} 窮すれば通ず

「窮地に追い詰められると名案が思い浮かび、切り抜けられる」という意味のことわざです。中国の古典が由来で、江戸・明治から昭和戦前に用いられ、戦後に広く使われるようになりました。夏目漱石の小説『坑夫』でも見られます。



ロシア

世渡りは平坦ならず

「人生や社会を生きていく上で、苦労や試練は避けられず、柔軟さや工夫が必要」という意味のことわざです。「思い通りにいかず苦労することもあるが、負けずに乗り越えていけば良い方向に進んでいく」という意味合いも含まれています。

用
例

私の人生を振り返ってみると、まさに「世渡りは平坦ならず」だった。君たちも2度や3度の失敗でくじけてはいけないよ」



【日本の似たことわざ】 七転び八起き

「失敗を繰り返してもめげずに頑張り通す」という意味の日本のことわざ。アジア諸国をはじめフランスやスペインという世界の幅広い地域で同様の言い回しをすることわざがあるため、日本から伝来したのではないかという説もあります。

参考資料：『世界ことわざ比較辞典』（編・日本ことわざ文化学会、監修・時田昌瑞・山口政信、発行・岩波書店）

その心は？

次のような場面を想像してください。あなたは、地域のごみ捨て場の掃除を1カ月間することになりました。さて、どのように取り組むでしょうか。

① 気が進まないけれど仕方なく取り掛かる。心の中は暗いままだが、形のうえではきちんと掃除をやり遂げる。

② 「みんなに喜んでいただく」という明るい心で取り組み、ごみ捨て場を使う人のことを思って掃除をする。

①と②では、どちらもごみ捨て場をきれいにするという行為は同じです。

しかし、あなたのその後が大きく変わってくるでしょう。

嫌々取り組んだ場合、最初はよくても徐々に不満が溜まり、続けるのが苦痛になってきます。手伝わない人や家族とけんかになるかもしれません。

一方、心から喜んで取り組んだ場合、続けることが苦ではなくなり、他の人に不満をぶつけることもありません。自分自身も爽やかな気持ちでしょう。

何かをするうえで、最も重要なのは心づかいです。せっかく善い行いをするのであれば、まず心を整えましょう。その後に言葉と行動がついていきます。相手の幸せを願う心があってこそ、善い行いが善い結果につながります。

今日の言葉

心と言葉と行動を一致させましょう

今日の気づき

コメント

自分への投資^{とうし}

新入社員のMさんは、初任給^{しよにんきゅう}で両親にプレゼントを贈ろうと決めています。そのことを両親に話すと、2人はとても喜んでくれました。

しかし、父親は次のように言ったのです。

「ありがとう。気持ちはいれしいが、私たちのことは気にしなくていいよ。それより、自分の勉強に使いなさい。英会話の教室に通いたいと言っていただろう。入会金に使ったらいい」

Mさんは少し戸惑いながら答えました。

「確かに勉強^{たし}はしたいけど、正直、私の収入^{しゅうにゅう}では痛い出費^{いた}だと思う」

すると父親は「だからいいんだ。自腹^{じばら}を切らないと本気で勉強^{べんきやう}しないだろう。自分で努力^{じゆりよく}したお金を使うから、真剣^{しんけん}になるんだよ」

簡単に手に入るものより、苦労して手に入れたもののほうが大切にします。Mさんは父親の言葉で英会話の勉強をする決意^{けつぎ}をしました。

時間やお金、労力を投じて得た経験^{けいけん}は、必ず自分の財産^{ざいさん}になります。

時には自分自身の未来のために、思い切った投資^{とうし}をしてみましよう。目標^{もくひょう}に本気で向かい合うきっかけになるはずですよ。

今日の言葉

自腹を切るから本気になれる

今日の気づき

コメント

行動した通り

エステサロンをけいえい経営するSさんのざゆう座右の銘は「志がこころざしあれば、人生は行動した通りになる」です。

「お客さまに喜んでもらえる店をつくりたい」という志を持って街のエステサロンで働き、10年目に故郷こきょうでお店を持つことができました。そのとき、働いていた店の店長が、はなむけの言葉おまを贈ってくれたのです。

「これからたくさん大変なことがあるでしょう。でも挫折ざせつするのか、可能性かのうせいを見出して道を開くのか、それは全てあなた次第しだいです。仕事も人生もあなたの考えた通りにはいかないかもしいない。でも、最初の志わすを忘れなければ、行動した通りの方向には進むからね」

経営は理想通りにはいかないことも多く、時には思いもよらないトラブルもありました。しかし、店長の言葉ふんきを思い出し、奮起してきたのです。

未来に何が起るかはわかりません。それでも、良い店をつくるために、手を抜ぬかない、約束を守る、明るく挨拶あいさつするなど、毎日の一つ一つの行動を大事にするしんらいと決めています。そうした小さな積み重ねがお客さまの信頼となり、今があるのだと思っています。

今日の言葉

志を持って行動しましよ

今日の気づき

コメント

愛され続ける理由

今日は、昭和29年に黒澤明監督の映画『七人の侍』が公開された日です。

野武士の襲撃に苦しむ村人たちが、七人の侍を雇い、村を守ろうとする物語は、今も多くの人に親しまれています。

この作品はヴェネツィア国際映画祭で銀獅子賞を受賞し、国内外で高い評価を得ました。撮影期間は約1年、製作費は当時の通常作品の7倍に達し、複数カメラの同時撮影や望遠レンズの活用、計算された映像の編集など、革新的な技法が随所に盛り込まれています。特に、豪雨の中で繰り広げられる決戦シーンは、水に墨汁を混ぜて雨を鮮明に見せるなどモノクロ映画ならではの工夫がされました。

黒澤監督は、細部に至るまで妥協を許さず、作品に情熱を注ぎました。その姿勢が、70年以上たった今でも不朽の名作として愛され続ける理由です。

技術は日々進歩し、文化も変化していきます。長年培った方法が通用しなくなる場面もあります。しかし、より良いものを生み出そうとする情熱や、仕事に向き合う真摯な姿勢が価値を失うことはありません。

先人の偉業から学び、その姿勢を見習いたいものです。

今日の言葉

真摯な姿勢と情熱は後世に遺ります

今日の気づき

黒澤明 明治43～平成10年(1910～1998年) 東京府荏原郡(現・東京都品川区)生まれ。映画監督・脚本家・映画プロデューサー。代表作に『七人の侍』『羅生門』『生きる』など。戦後の日本映画を代表する監督であり、ジョージ・ルーカス、スティーブン・スピルバーグなど海外の映画監督にも多大な影響を与えた。

コメント

今すぐやろう

日々の仕事の中で、「後でやろう」と思ったまま時間が過ぎてしまうことはありませんか。

忙しいのせいにして後回しにすると、気づけば小さな仕事が集まり、負担になってしまふことがあります。また、そのまま忘れてしまふことで、大きなミスにつながる可能性もあるでしょう。

そうならないように、すぐにできることであれば、その場で実行するように心掛けたいものです。

たとえば、メールの返事や折り返しの電話をする。頼まれたことはできるだけ早く対応する。誰かにお願いがある場合は、その場ですぐ依頼をかけるなどです。

もし、どうしてもすぐにできない場合はメモを書き、見えるところに貼っておくといいでしよう。

「その場で実行する」という習慣は、うっかりミスを防ぐと同時に仕事の流れをスムーズにし、周囲からの信頼にもつながります。「これくらい後でいいか」と思うことほど、早く終わらせておくようにしましょう。

今日の言葉

後回しにしない習慣を

今日の気づき

コメント

【社員旅行参加時のマナー】

会社行事という意識を大切に。 気を付けたい主なマナー

社員旅行は、部署や世代を超えて交流できる貴重な機会です。

一方で、気が緩んだ言動がトラブルにつながることもあるため、最低限のマナーが求められます。今回は社員旅行に関するマナーについて考えてみましょう。

団体行動では、悪気はなくとも普段の習慣や価値観の違いから周囲を不快にさせることがあります。全員が気持ちよく過ごせるよう、基本を押さえておきましょう。社員旅行で必要な行動・気配りについて、本文中の①～⑥に当てはまる答えを、左の選択肢から選んでください。

- A 軽はずみな B 自他 C 許可
D 一気に飲む E 最新の流行
F 節度を守る
G 面白い H 公私 I 笑い
J TPO K 恩師
L 上司か幹事 M 強要しない

社員旅行の基本マナー

社員旅行は会社行事の一つです。そのため職場の延長である意識を持つことが大切です。集合時間は必ず守り、余裕を持って行動しましょう。服装は自由であることが多いものの、あくまでも会社行事のため①に合わせます。露出が多すぎたり派手すぎたりする服装は避けたほうが無難です。また、体調に不安があるときは我慢せず、②に相談するようにしましょう。無理をしないことも全員が安全に行動するための配慮です。

飲食の場では、相手のペースを尊重し、お酒を③ことが大切です。お酌を強要したり、断りにくい雰囲気を作ったりしないように注意しましょう。

情報共有とプライバシーのマナー

社員旅行では写真や動画を撮る機会が増えます。思い出しとして共有するのは良いことですが、SNSに投稿する前に写っている人に必ず④を取るようにしましょう。また、投稿する内容にも注意が必要です。会社の内部情報(個人情報、現在進行中のプロジェクトの情報など)が入っていないか注意しましょう。会社の信用に関わる場合があります。

自由時間であっても、⑤ことが大切です。軽はずみな行動で、会社の評判を落とさないようにしましょう。

社員旅行は、⑥の境目があいまいになりがちです。全員が気持ちよく過ごせるよう一人一人の気を配ることが重要です。

一本の藁わら

昔話の「わらしべ長者」をご存じでしょうか。主人公の貧しい青年が、観音さまに願いを掛けると、「最初に手に入れたものを大事にせよ」とお告げを受けます。そこで道端に落ちていた一本の藁を拾って歩き出します。

すると、藁を欲しがる子どもに出会い、その子の母親がミカンと交換してくれます。さらに歩くと、ミカンを欲しがる人がいて、上等な絹と交換することになりました。そのように、さまざまなたちと出会い、持っているものを交換していくうちに、いつしか青年はお金持ちになったのです。

社会に出たばかりの新入社員を、この話にたとえてみましょう。

最初はみんな一本の藁のような弱々しい力しか持っていません。しかし、その力を誰かに提供することで、次のチャンスが得られます。そして経験を積むことで能力が少し上がり、次は少しだけ大きな力を誰かに提供できるよう。その繰り返しにより、徐々に成長していくのです。

この話の主人公のように「言われたことを素直にやる」「相手のニーズを満たす」「できることを積み重ねる」という姿勢を大切にしてみましよう。きつとたくさんの素晴らしい出会いと成長の機会に恵まれるはずですよ。

今日の言葉

小さな力を育てましよう

今日の気づき

コメント

子どもたちの太陽であれ

本日は昭和の日です。

昭和の時代は、戦前・戦中・戦後と日本が大きな変化と成長を遂げた時代です。特に戦争の災禍を乗り越え、復興と経済発展を実現した先人たちの経験や教えは、私たちに大きな学びをもたらしてくれています。

今年は、昭和元年から満100年となる年です。あらためて昭和の時代を振り返り、後世に伝えていきたいと思います。

また、これからの未来に、私たちが子孫に何を遺せるかを考えることも必要です。

20世紀初頭に活躍したアメリカの自己啓発作家、オリソン・マーデンは、親が子に遺すことのできる最高の遺産は何かという問いに、次のように述べています。「優しい性格、寛容の精神、広い教養、強い責任感を兼ね備えた立派な人格者だったという思い出である」。

子孫にとって最も偉大な遺産は、金銭や技術だけではなく、模範となる生き方だといえます。子どもがいる人、いない人にかかわらず、未来を担う子どもたちに恥ずかしくない振る舞いをしていきたいものです。

今日の言葉

子孫の模範となる生き方をしましょう

昭和の日

平成19年(2007年)に制定された祝日で「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす」ことを趣旨としている。日付は昭和天皇の誕生日に由来する。

オリソン・マーデン (1848～1924年) アメリカ・ニューハンプシャー州生まれ。自己啓発作家。代表作『前進あるのみ』は全世界で1000万部を突破する大ヒットを記録し、日本でも明治期に150万部を超えるベストセラーとなった。

今日の気づき

コメント

リミッターの解除

マラソン選手の矢田みくにさんは、今年1月の大阪国際女子マラソンで、日本人トップの4位になりました。

この快挙の背景には、昨年の世界陸上女子1万メートルでの経験があります。世界のトップ選手と競った矢田さんは、20位という結果に終わりました。実力の違いを目の当たりにした矢田さんは、「自分の中の『あたりまえ』を取っ払う必要がある」と強く感じたといいます。そこで掲げたテーマが「リミッターの解除」です。自分で決めてしまっていた限界を少しずつ外す練習を続け、その努力が今回の結果につながりました。

知らず知らずのうちに「自分には無理だ」と限界を決めてしまうことはないでしょうか。もちろん、実力以上のことが突然できるようなことはありません。しかし「ほんの少し」なら超えられることが必ずあります。

たとえば、人前で話すのが苦手な人は、一言だけでも自分の意見を話してみよう。AIの知識に疎い人は、諦めずに説明を読んでみるなど、小さな一歩が、やがて大きな成長につながります。誰しも、秘められた力があるものです。自分の力を信じ、昨日より一歩だけ前へ進んでみましょう。

今日の言葉

昨日より一歩だけ頑張りましょう

今日の気づき

コメント

歴史が教える

人の生きざま

豊臣兄弟

第4話 金ヶ崎の退き口

織田信長が美濃を平定

1567年（永禄10年）、稲葉山城の戦いに勝利し、織田信長が美濃攻めが完遂しました。美濃国を平定した信長は、そのころから「天下布武」の朱印を使うようになります。これは、「武力によって天下を治める」の意味です。信長の天下統一の意志を示すものという考え方もありますが、現在の説では、都を追われた將軍家の足利義昭を將軍とし、足利幕府を再興する決意を示すものだともいわれています。

稲葉山城の戦いでは、木下藤吉郎の活躍が伝えられています。稲葉山城の搦め手（裏門のこと）に至った藤吉郎が、瓢箪を竹の先に付けて高く掲げ、それを合図に兵が城内になだれ込み、城が落ちるきっかけを作りました。その出来事が、豊臣の馬印、千成瓢箪の基になったと伝えられています。

秀長の織田家での立場

美濃攻めでの功績により、藤吉郎の織田家での立場は向上します。ここから数年で京都奉行、近江国城主と飛躍的な出世を遂げています。

ところで、兄の活躍を支えた弟の小一郎は織田家でのような立場だったのでしょうか。1565年（永禄8年）ごろには、藤吉郎の活動が史料に見られるようになるので、そのころには小一郎も仕官していたと推測されます。兄の家来として働いていたと考えられますが、小一郎は織田家で初名を「長秀」と名乗っており、これは信長の「長」と秀吉の「秀」の組み合わせです。そのため、兄に仕えていたのではなく、信長に直接仕えていたという説もあります。だとすると小一郎は兄と同様、家来の一人として、信長に認められた存在だったのかもかもしれません。

金ヶ崎の退き口

1568年（永禄11年）、上洛していた信長は京都で足利義昭が征夷大將軍に任じられたのを見届け、岐阜城に戻ります。1570年（元亀元年）、信長は朝倉義景を討つため越前に出陣します。ところが越前国金ヶ崎で同盟を結んだ仲間であり妹婿でもある浅井長政の裏切りにあい、退却を余儀なくされます。藤吉郎はこの撤退作戦で、危険な「殿」の役を自ら願い出ます。最後尾で追ってくる敵と戦いながら、本隊を逃がす役目です。危険だからこそ、やり遂げることでできれば大きな功績です。

兄の意を汲んだ小一郎は覚悟を決めて兵を励まし、敵からの攻撃を受けながらの撤退にかかります。木下組は多数の死傷者を出しながらもこの大役を見事果たしました。

（次号につづく）

参考資料

●【全一冊】豊臣秀長 ある補佐役の生涯 | 著 / 堺屋太一 発行 / 株式会社 PHP 研究所
●豊臣ミュージアム ホームページ 他 ●大河ドラマ 豊臣兄弟! 豊臣兄弟とその時代 | 著 / 常井宏平 監修 / 黒田基樹 発行 / 株式会社宝島

『月刊朝礼』をご利用いただいている
お客さまの声

「日本全国祭りじまん」に応募します。石川県七尾市の祭り「青柏祭」です。青柏祭は、石川県七尾市で毎年5月に行われる、能登を代表する春の祭りです。大地主神社の祭りとして、3基の巨大な曳山「でか山」が市内を巡行します。高さ約12メートル、重さ20トン、家よりも大きい山車が動く姿は圧巻です。自慢ポイントには、その巨大さにもかかわらず、狭い町の中を進んでいく迫力と工夫。

こんな大きな山車が、どうやって前に進み、どうやって曲がるのか、思わず見入ってしまいます。さらに観光客も綱を引いて参加でき、町の人と一体になって祭りを体感できる参加型の祭りです。地震もあり、やっと2025年5月に再開することができました。過

疎化が進んでいる町ですが、七尾の人は祭り熱が強いので、みんな地元に戻ってきます。ぜひ、皆さんに来てほしいです。

(石川県 安田商事株式会社
山本茉依さま)
編集部からのお返事

お便りありがとうございます。今月号から始まる「日本全国祭りじまん」に青柏祭を取り上げさせていただきますました。お便りにあるように、迫力ある祭りの雰囲気伝わってきますので、ぜひ裏表紙の記事を読んでみてくださいね。

震災を乗り越え、復興に励む皆さまに喜んでいただければ幸いです。お祭りはもちろん、観光にも能登へぜひ行きたいですね！

●お客さまの声を大募集!!
お客さまからいただきましたご意見は、弊社HPや『月刊朝礼』本誌で紹介させていただきます。詳しくは左記URLをご確認ください。
<https://www.chourei.jp/voices/>

編集部から読者さまへ

●おたより、お問い合わせについて
『月刊朝礼』へのご意見、ご感想などをお寄せください。また、お問い合わせも受け付けています。

下記、コミニケ出版『月刊朝礼』編集部までお送りください。Eメールでも受け付けています。

info@kominike-pub.co.jp

必ずお名前・ご住所、お電話番号を明記のうえ、お送りください。掲載させていただいた方には、500円分の図書カードを差し上げます。

●朝礼の取材にご協力を

読者のみなさまの職場や会社で行われている朝礼を、ぜひ取材させていただきます。なお、取材に関する詳細は編集部までお問い合わせください。
TEL 06-6882-4311
(担当 梶谷)

●ご理解とご協力を

『月刊朝礼』の本文記事をインターネット、各種ホームページ、印刷物などへの無断転用、転載、複製することは、ご遠慮ください。読者さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

裏表紙 日本全国 祭りじまん

執筆：加藤正明(かとうまさあき) 1956年 大阪生まれ。祭りエッセイスト。東日本国際大学地域振興戦略研究所客員教授。立命館大学OIC総合研究機構客員協力研究員。NPO日本の祭りネットワーク理事。元・「ダイドーグループ日本の祭り」運営メンバー。著書に『成功する地域ブランド戦略』『祭りのイノベーション』『祭りのウェルネス』など。



協力：一般社団法人ななお・なかのDMO

URL：<https://corp.nn-dmo.or.jp/>

月刊朝礼4月号 令和8年4月1日発行

第43巻 第4号 通巻505号

昭和59年8月10日 第三種郵便物認可

編集発行人 下井謙政

発行所 株式会社コミニケ出版

〒530-0043

大阪市北区天満4丁目1番2号

コミニケ出版ビル

TEL 06-6882-4311 FAX 06-6882-4312

本体価格 660円/月(税込) 年間購読制

(送料が別途必要です)

印刷 株式会社コミニケ出版 印刷事業部

日本
全国

祭り びまん

第1回

せい はく さい
青柏祭の
ひき やま
曳山行事
(前編)

[石川県七尾市]

実施日/5月3~5日

お出かけの際は、事前に開催情報をお確かめください。

かとう まさあき
文/加藤 正明

見上げんばかりの曳山、三台
能登にでっかい春が来る

高さ12メートル、重さ20トン、車輪の直径2メートル。両手へ空に向かって広げた形の巨大な曳山（でか山）が3つの町から奉納される、この祭り。巡行で聴ける朗々とした木遣唄（きぢやうた）、テコを使った豪快な方向転換「辻廻し」「曳き出し・曳き込み」の緊張感と高揚など、いかにもの祭りらしさを幾重にも備えた、七尾市の名物行事です。

願うのは五穀豊穡。おそろく、七尾が日本海屈指の港町で、近世になって北前船が出入りし、商人・船乗り・旅人が常に往来する「見られる町」であったことが、曳山がこま

巨大化した、つまり都市のモニュメントとなった理由なのかと。

忘れてはならないのが、準備と解体の大変さです。若者からお年寄りまで、地区の老若男女が忍耐強く作業にかかわることとこの祭りは成立しています。だからこそ、どんなに時代が変わっても地域のゆるぎない絆と信頼が保たれてきた。町そのものが誇らしげに胸を張りつつけてこられた。

でか山が、ぐぐぐいと動き出すと、待ちわびたでっかい春が、能登半島にやってきました。

※取材協力・写真提供
一般社団法人ななお・なかのとDMO



月刊朝礼 令和8年4月号

株式会社 コミニケ出版

<https://www.kominike-pub.co.jp>

税込価格 660円 (本体価格 600円)

※送料が別途必要です(複数冊ご購入の場合はお問い合わせください)

ご署名

本誌の無断コピー・転載等は、ご遠慮ください。